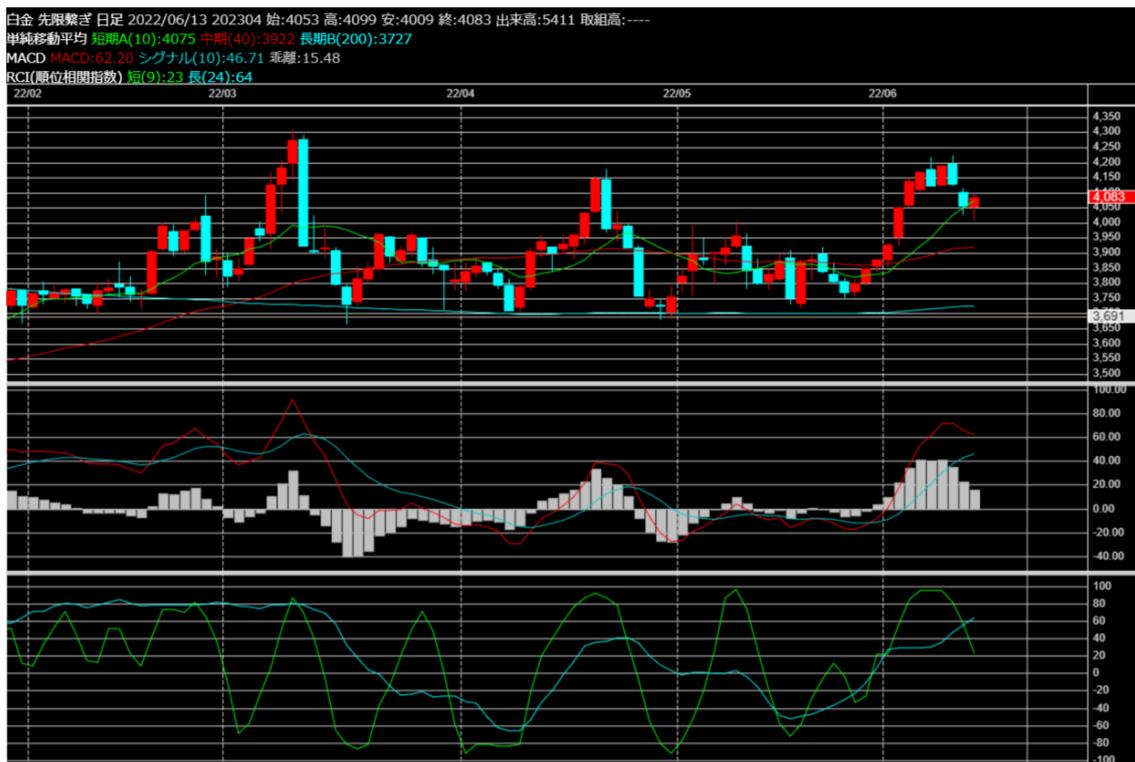


## <白金標準先物、上海市のロックダウン警戒の戻り売り相場・・・>



(出所：オアシス)

6月1日に上海市の厳格なロックダウンが2ヶ月ぶりに解除され、中国の景気対策も6割近くが自動車販売促進を狙ったナンバープレート4万台の増加や電気自動車の補助金や新車購入時の減税などである。またシンガポールで開催されていた貴金属会議ではWPIC代表が「今年の供給過剰は供給リスクと需要増加を受けて、不足に転換する可能性が高い」と述べるなど、白金標準先物は一時円安効果を受けて4225円まで高値を試している。

しかし中国上海市で、8日9人、11日には15人と感染者が拡大しており、11日、12日に上海市16区の内、14区で大規模PCR検査を実施し、その間は移動規制が課せられている。そのため感染拡大が確認された区は2週間のロックダウンに入る事から、再度のロックダウンを嫌気した売りで白金標準先物は、一時4009円まで下値を試している。

特に今週は上海市や北京市の感染状況や厳格な移動制限の懸念に15日のFOMCにおけるパウエルFRB議長の記者会見が注目され、再びロックダウンが実施されれば、白金標準先物は4000円を割り込む可能性は高くなると予想される。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り下げながら、シグナルは上昇するなどヒストグラムの乖離が縮小している。またRCIでは短期が下げながら、長期の上昇を下回る動きを見せている。日足でも上昇している10日移動平均線を下回るなど戻り売りを示す動きを見せており、週末の安値4009円を下回る動きには注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 944,900 円(2022 年 6 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 6 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>